YIC
Your Institute of Community Education

KOCHOだより ㊾

平成29年(2017年)8月 26日
YIC保育＆ビジネス専門学校　須内

○　１５００字

２４日（木）に本校の教育課程編成委員会と学校関係者評価委員会を開催しましたと前号で少しお知らせしました。そこで話題になったことの中から一つ記述してみます。高等学校の先生も同席されていましたので生徒の学びのことなどに話が進んだ場面がありました。

社会人として周りから信頼され自ら伸びてゆく生徒を育てたいという内容から始まりました。まず、気持ちのよい「あいさつ」が自然にできることが挙げられました。やはりそうですね。次に素直であることが挙げられました。人の話をよく聞き忠告も素直に受け止めて、その内容を自分の資質向上に生かせる人は伸びていきますね。そして、書いた書類などに「誤字脱字」がないことも挙げられました。この三つ目のことについて感じたことなどを紹介します。

最近、若者たち（ひとくくりに決めつけてはいけませんが、）が紙に直接書いた文章に誤字脱字が目立つように思います。または漢字がなかなか書けない生徒も多いようですという話から始まりました。原因の一つにはＰＣ（パソコン）のワープロ機能やスマホの活用があるだろうと思います。若者に限ったことではないけれど、機械が漢字に変換してくれることに慣れていますので、紙に直接文字を書こうとすると漢字が思い出せないことが多くなりましたね。

私は小学校勤務の時、国語の書写（習字）の授業を支援していたことがあります。今回は毛筆ではなく硬筆の場合のことです。硬筆でも漢字の組み立てを学び、バランスがよく美しい文字を書くことができるように練習をします。文として書く場合には漢字はやや大きくひらがなはやや小さくすると全体のバランスやリズム感が美しく見えることなどを知らせていました。

学習指導要領により学年ごとに新出漢字が決められています。小中学生たちは１年間をかけて覚えていきます。書写の時間には覚えることを兼ねてひたすら漢字を書くという時間もありました。そこで気づいたことですが、全体的に子どもたちは書くのが遅く、字もきれいではない子が多いようです。日頃から書きなれていないのでしょう。私は子どもたちを発奮させるために自分の経験を話してみました。

自分が小学校の３・４年生の頃だったと記憶しています。先生が誰であったかは失礼ですがあまり覚えていません。しかし今でも鮮明に覚えていることは“１５００字”のことです。その先生は宿題をしてこなかったりした時の“お仕置き？”として１５００個の漢字を書くよう私たちに命じていました。Ｂ４くらいの大きさのわら半紙を半分ずつ５回折ると３２行の折り目ができます。１行に５０個の漢字を書くとほぼ１５００字になります。小学生には結構な量です。指や手も痛くなりました。どちらかというとよくない思い出ですが、結果的に書くのが速くなり、漢字も覚えることができました。今ではその先生に感謝しています。

さて、その話を聞いたからといってすぐに小学生が意欲的になるわけではありません。「私と競争しよう。」と投げかけ、子どもたちが書いているページと同じ漢字を黒板に、速くかつ極力ていねいに「用意スタート！」で私も書いていきました。これにはみんながつられてくれましたね。

余談：使用する文字がアルファベットである人たちと交流することが何回もありましたが、ほぼ皆“文字の美しさ”には無頓着でした。筆記体だと美しさの観点もありそうですが、今はあまり使われません。文字の美しさに関心を示すのは中国～日本などの東洋が主でしょうか。

参考資料：ちなみに、このKOCHOだより59号にある文字数は１５３５字です。

～今回は挿絵や写真を使わず、文字のみで作成してみました。～

自校自賛 ……………………………………………………………… お休み